

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名	フィルムコミッション関連事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	伊澤 敦
		担当者名	森田美佐世	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	ロケーション施設管理費(54-80-50-01)				
事務事業の種類	新規事業（19年度 18年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	15 年度	根拠		
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	映画、ドラマ、CMなどの撮影を区内に誘致し、映像を通して区のイメージアップを図る。				
対象者等	映画、ドラマ、CMなどの製作会社				
内容	<p>区内公共施設や区内での撮影を誘致するために、施設の提供、手続きの利便性向上等支援を行う。</p> <p>1 旧道灌山中学校校舎3階の一部を映像制作コーディネータに貸付け、ロケ場所として提供 貸付場所 荒川区西日暮里5-37-5 旧道灌山中学校 3階一部346.64㎡ 貸付先 (株)三ツ橋商事 東尾久8-4-4 貸付料 月額 223,000円 共益費 月額 50,000円 使用時間 午前9時～午後9時</p> <p>2 ロケに関する相談受付、情報提供、区施設使用に係る連絡調整</p>				
経過	<p>平成13年 3月 道灌山中学校廃校 9月 校舎をACCに無償貸与 平成15年 2月 ACCがロケ場所として提供(映像制作コーディネータに貸付け) 10月 ACCへの無償貸与中止、区が映像制作コーディネータに貸付け 平成17年 4月 公募により、コーディネータの選定 平成18年 6月 貸付け方法の見直し</p>				
必要性	映像を通じた区のイメージアップを図ることができる。				
実施方法	(直営 一部委託 全部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	
予算額				16,166	6,185	1,409	1,382	
決算額(19年度は見込み)				535	570	629	1,382	
人件費					3,062	904		
【事務分担量】(%)					50	25		
合計(+)	0	0	0	535	3,632	1,533	1,382	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)			3,129	7,958	4,202	6,585	3,276	
一般財源	0	0	-3,129	-7,423	-570	-5,052	-1,894	
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	旧道灌山中学校利用件数				85	145	76	120
	その他区施設でのロケ件数				40	34	23	30
	ロケに関する相談等受付件数						75	80

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	光熱水費	電気料	82	電気料	85	電気料	132
	需用費	建物修繕ほか	40	建物修繕ほか	0	建物修繕ほか	674
	役務費	受水槽清掃	12	受水槽清掃	12	受水槽清掃	12
	委託料	清掃、管理、警備	436	清掃、管理、警備	532	清掃、管理、警備	564

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	
	旧道灌山中学校利用件数	145	76	78	70	70	暫定利用（平成22年3月まで）
	その他の区施設でのロケ件数	40	34	23	30	30	公園、体育館等の利用状況
	ロケに関する相談件数			75	80	80	

（問題点・課題）	<p>撮影の誘致を拡大するためにPRの充実、支援機能の充実が必要である。 区のイメージアップに結びつけるための方策について検討する必要がある。</p>
他区の実況	<p style="text-align: center;">（ 実施 2 区 未実施 区 ）</p> <p>台東区フィルムコミッション（平成17年度） 学校施設の提供は、台東区、豊島区が実施</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
区施設の使用に関して、関係部課との連携により、利便性を拡大するなど支援機能の充実を図る。	ロケ手続き等の利便性を充実することにより、ロケの誘致件数を拡大できる。
クレジットの挿入依頼、ロケに関する区内外へのPR等イメージアップに結びつけるための方策について検討する。	映像を通じた区のイメージアップ効果が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
C	C	現状の規模・実施方法を維持しつつ、効果的・効率的な実施に努める。

議会質問状況（要）	<p>H14二定 FCの検討について H14三定 「ロケの街」として売り込むための取り組みについて</p>
-----------	---

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名	観光情報提供事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	伊澤 敦
		担当者名	坂野竜二、久保田賢	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	観光情報提供事業（54-82-33-01）				
事務事業の種類	新規事業（19年度 18年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	14 年度	根拠		
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	荒川区の観光情報を区内外に広く提供することによって、区のイメージアップを図るとともに区への来訪者を増やし、地域経済の活性化を図る。				
対象者等	区外の人々及び区への来訪者				
内容	1 観光ガイド（イベントカレンダー）の作成（平成14年度～） 2 産業HPに区内行事のインターネット動画配信（平成14年度～） 平成18年度から9件（都電荒川線沿線のバラ、素盞雄神社天王祭、諏方神社御神幸祭、胡録神社例大祭、尾久八幡神社例大祭、仲町通り阿波踊り大会、元三島神社大祭、石浜神社神幸祭、熊野前サンパカーニバル）を常時配信 3 産業HPに都電荒川線花見どころサイトの開設（平成14年度～） 4 まちあるきマップの作成（平成17年度日暮里・南千住、平成18年度都電荒川線沿線） 5 観光ボランティアガイド養成講座（平成18年度～全10回） 6 観光ボランティアガイドの活動（平成18年度～）				
経過					
必要性	多様な情報発信により区のイメージアップ、来訪者の増加を図ることができる。				
実施方法	（ 直営 一部委託 全部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ）				

		（単位：千円）						
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
予算・決算額等の推移	予算額		2,152	7,192	14,727	2,775	2,816	5,933
	決算額（19年度は見込み）		1,894	2,292	1,276	3,155	2,391	5,933
	人件費					6,033	9,394	
	【事務分担当】（%）					70	110	
	合計（+）	0	1,894	2,292	1,276	9,188	11,785	5,933
	国（特定財源）							
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	1,894	2,292	1,276	9,188	11,785	5,933	
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	観光ガイド(イベントカレンダー)		5,000部	8,000部	20,000部	20,000部	20,000部	20,000部
	まちあるきマップ					116,000部	56,000部	56,000部
	観光ボランティアガイド養成講座						30人	20人
	観光ボランティアガイドの活動						2回	10回

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般需用費	観光ガイド	399	観光ガイド	395	観光ガイド	400
	委託料	動画配信	673	動画配信	382	動画配信	808
	委託料	まちあるきマップ	2,083	まちあるきマップ	1,352	まちあるきマップ	2,293
	報償費			観光ガイド養成講座ほか	101	観光ガイド養成講座ほか	202
	一般需用費			観光ガイド養成講座謝礼	161	観光ガイド養成講座謝	230
						都電沿線マップ	2,000

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	
	観光ボランティアガイド案内者数	-	-	23人	120人	200人	
	観光ボランティアガイド活動者数	-	-	8人	50人	100人	

(指標分)	ニーズに応じて区の魅力や最新の情報を適切に提供していく必要がある。 観光ガイド養成講座修了者をボランティアガイドとして有効活用するしくみづくりが必要である。
他区の実況	（ 実施 22 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
ホームページやパンフ等の充実を始め、多様な手法によりニーズに応じた荒川区の観光情報を提供する。	適時適切な情報発信を行い、区の魅力を多くの人々に伝えることにより、来訪者を増やすことができる。
観光ガイド養成講座修了者を活用するしくみをつくり、来訪者にボランティアガイドとして斡旋する。	区民参加の拡大を図るとともに、来訪者に対する受入体制を充実することができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
A	A	観光振興を図るための基本的な事業であり、拡充に努める必要がある。

議会質問状況（要旨）	<p>H16一定 観光振興に学芸員を活用して</p> <p>H16三定 観光組織づくり。観光スポットを売り込む。</p> <p>H16三定 コリアンタウンの情報発信をすべきである。</p> <p>H16四定 観光ガイド養成講座を開設。菓子問屋ミュージアムの開設。</p> <p>H18三定 観光マップの活用を図るため、協力店を募集し、配布拡大を図るべきである。</p> <p>H18四定 日暮里、三河島の再開発ビルに「観光案内ステーション」を設置し、観光スポットを発信する。</p>
------------	---

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名	荒川ブランドセールスプロモーション事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	伊澤 敦
		担当者名	日下正秀	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	荒川ブランドセールスプロモーション事業(54-82-50-01)				
事務事業の種類	新規事業（19年度 18年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	17 年度	根拠	平成19年度等京都産業を活かした観光ルート整備支援事業費補助金交付要綱	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	区内で製造、販売されている荒川区らしい優れた商品について区内外にPRを図ることにより、区のイメージアップ、観光と産業の振興を図る。				
対象者等	商品の製造、販売事業者 区民、区外の人々及び来訪者				
内容	<p>1 「荒川ブランド」商品を紹介する冊子の作成・配布 平成17年度 荒川のおすすめ品 区民が選んだおみやげ編Part 1（33商品） 区民から公募し、選定委員会において選定 平成18年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編（伝統工芸品47商品、荒川マイスター製品17商品）</p> <p>2 「荒川ブランド」PR 区報、産業ニュースHP等で商品の紹介、 荒川ショッピングモールで商品を紹介・販売（平成17年度～） 日本コンシルジュ協会定例会（平成19年1月）においてPRし、各ホテルに配付 集客施設での実演・展示・販売 都庁観光情報センターPRコーナー（18年3月延べ17日間8人、19年3月19日間7人） ムーブ町屋一村一品マーケット（18年12月延べ6日間5人）</p>				
経過					
必要性					
実施方法	（ 直営 一部委託 全部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ）				

		（単位：千円）						
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
予算・決算額等の推移	予算額					3,000	29,914	9,400
	決算額（19年度は見込み）					2,771	4,251	9,400
	人件費					4,310	7,686	
	【事務分担当】（%）					50	90	
	合計（+）	0	0	0	0	7,081	11,937	9,400
	国（特定財源）							
都（特定財源）							2,500	
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	7,081	11,937	6,900	
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	商品紹介冊子作成(部)					10,000	20,000	
	PRイベント					1	2	6
	産業観光スポット整備							5

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	区民の会報償費	132				
	一般需用	応募者記念品	345	シール印刷	99	消耗品	200
	委託料	カタログ印刷	992	カタログ印刷	3,192		
	使用料	ブランド構築調査	1,302	展示販売会場設営委	873	展示販売会場設営委	3,000
	負担金			展示販売会場賃料	87	展示販売会場賃料	600
						産業観光スポット整備	5,600

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	
	荒川ブランドPRイベント	-	-	2回	6回	6回	
	産業観光スポット整備件数	-	-	-	5件	5件	

（問題点・課題）	PR、展示・販売の場所や機会の拡大を図る必要がある。 展示・販売店舗は、実施したうえでの課題等を整理し、実施方法の改善にフィードバックしていく必要がある。
他区の実況	（実施 4 区 未実施 18 区） 練馬区（ネリコレ）：平成14年度 北区（みんなが選んだ北区の名品）：平成15年度 板橋区（区民が選ぶ板橋のいっぴん）：平成15年度 豊島区（区民が選ぶ名品・名産70選）：平成14年度

問題点・課題の改善策検討	
平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
区内外のイベント会場、来客施設等での展示、販売を拡大する。	より多くの人に荒川区の優れた商品を知ってもらうことにより、区のイメージアップと観光振興、産業振興を図ることができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
B	B	区の魅力をアピールする上で重要である。

（状況）	H17二定 姉妹友好都市交流における観光振興の視点を。 H17三定 観光情報の効果的な発信について。
------	---

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名	荒川区観光大使PR事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	伊澤 敦
		担当者名	久保田 賢	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	荒川区観光大使PR事業(54-82-60-01)				
事務事業の種類	新規事業（19年度 18年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	18 年度	根拠		
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	区の魅力を積極的に紹介していただける著名人を「荒川区観光大使」として任命し、幅広い人脈やネットワークを活かして、荒川区のPRとイメージアップを図る。				
対象者等	荒川区在住又は出身者で、区に愛着を持ち、区の魅力を積極的に紹介していただける著名人				
内容	実施内容 1 それぞれの立場において機会あるごとに荒川区のPRをしてもらう。 2 荒川区観光大使としての名刺を作成。 3 区長と観光大使との対談を実施し、対談内容をケーブルテレビやホームページ等で情報発信する。 4 都電荒川線のポストカードを作成。				
経過					
必要性	著名人を活用した効果的な区のイメージアップ				
実施方法	（ 直営 一部委託 全部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ）				

		（単位：千円）						
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
予算・決算額等の推移	予算額						1,379	759
	決算額（19年度は見込み）						380	759
	人件費						7,686	
	【事務分担当】（%）						90	
	合計（+）	0	0	0	0	0	8,066	759
	国（特定財源）							
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	8,066	759	
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	観光大使任命(人)						4	2
	区長との対談(回)						1	1
	PR活動						随時	随時

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費			対談報償費	0	対談報償費	156
	旅費			費用弁償	0	費用弁償	3
	一般需用			観光PR名刺印刷	380	観光PR名刺印刷	600

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	
標							

（問題点・課題分析）	
他区の実況	（実施 2 区 未実施 20 区） 中央区（ミス中央）3人、台東区10組12人（18年度）

問題点・課題の改善策検討	
平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
B	B	当初の規模で実施する。

議会議決要旨（要旨）	
------------	--

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名	産業観光推進事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	伊澤 敦
		担当者名	野沢 亮	内線	460
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	産業観光推進事業（54-85-10-01）				
事務事業の種類	新規事業（19年度 18年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	14 年度	根拠		
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	荒川区の産業技術や伝統工芸技術などを、広く区内外に周知し、荒川区の産業観光を推進する。				
対象者等	区民及び区外の人々				
内容	観光PRコーナーの設置 あらかわの伝統技術展（16年度荒川100景、17年度観光クイズ、日暮里富士見坂、18年度都電荒川線切り絵） 荒川区産業展（17年度、18年度おすすめ品販売） 荒川遊園ふれあいハウス（18年5月、夏休み、19年5月おすすめ品販売） TCK大井競馬場（17年、18年、19年5月下旬荒川区特別のレースに合わせおすすめ品販売） つくば市産業展（18年11月28日、29日おすすめ品販売） 鉄道フェスティバル（尾久駅構内18年11月11日） 荒川車庫おもいで広場オープン（19年5月26日おすすめ品販売） 駅からハイキング（19年5月26日） 千葉ロッテマリンスタジアム（19年6月2、3日東京スタジアム関連イベントでおすすめ品販売）				
経過					
必要性	区内観光情報を区外に発信し、区のイメージアップを図る。				
実施方法	（ 直営 一部委託 全部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ）				

		（単位：千円）						
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
予算・決算額等の推移	予算額		563	900	900	900	900	2,313
	決算額（19年度は見込み）		563	506	467	595	457	2,313
	人件費					3,686	4,270	
	【事務分担量】（%）					50	50	
	合計（+）	0	563	506	467	4,281	4,727	2,313
	国（特定財源）							
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	563	506	467	4,281	4,727	2,313	
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	PR事業実施件数			2	2	4	5	5

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
委託料	伝統技術展		473	伝統技術展	457	伝統技術展	800
		都庁PRコーナー	122				360
					ウォークラリー	1,153	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	
イベント会場での実演・展示実施件数		2件	4件	2件	4件	6件	

（問題点・課題）	観光振興、産業振興に結びつく効果的なPR方法を検討、実施する必要がある。
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
区内外のイベント会場、来客施設等での展示、販売を拡大する。	より多くの人に荒川区の優れた商品を知ってもらうことにより、区のイメージアップと観光振興、産業振興を図ることができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
C	C	現状の規模で実施する。

議会議決要旨	H17二定 産業観光の視点で、姉妹友好都市交流をするべき。 H17二定 日暮里・舎人線の開通に合わせて、イベントを開催してはどうか。 H18一定 観光産業振興を図るため、花電車を走らせたらどうか。 H18四定 都電を活用し、荒川区の観光振興を図るべきである。
--------	--

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名	観光案内標識設置事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	伊澤 敦
		担当者名	久保田 賢	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	観光案内標識設置事業(54-85-20-01)				
事務事業の種類	新規事業（19年度 18年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	16 年度	根拠法令等	東京都観光案内標識設置補助金要綱	
終期設定	有 無	19 年度			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	観光客の多様なニーズに対応できる受入環境の整備促進のため、外国人旅行者にも配慮した外国語（英語、中国語、ハングル）標記の観光案内標識を整備する。				
対象者等	荒川区への来訪者				
内容	東京都観光案内標識設置補助金要綱に基づく、補助事業（10/10） 観光案内標識の整備 平成17年度 日暮里地区 4基 平成18年度 南千住地区 5基				
経過	平成16年度 メトロ三ノ輪駅周辺に設置を予定（1基）（東京都、国交省国道事務所、台東区と調整がつかず中止）				
必要性	外国人観光客を含む来訪者の受け入れ体制の充実				
実施方法	（ 直営 一部委託 全部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 地図データ作成 (株)セイコー社 看板作成 (株)大蔵製作所				

		（単位：千円）						
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
予算・決算額等の推移	予算額				2,000	6,000	7,500	6,000
	決算額（19年度は見込み）				0	4,809	5,576	6,000
	人件費					3,448	3,416	
	【事務分担当】（%）					40	40	
	合計（+）	0	0	0	0	8,257	8,992	6,000
	国（特定財源）							
	都（特定財源）					4,809	5,575	
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	3,448	3,417	6,000	
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	日暮里地区					4		
	南千住地区						5	
	都電荒川線沿線							4

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	委託料	案内標識データ作成	1,134	案内標識データ作成	1,397	案内標識データ作成	1,200
	委託料	案内標識看板作成	3,675	案内標識看板作成	4,179	案内標識看板作成	4,800

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	
	設置標識数	0	4基	5基	4基	-	東京都補助事業（時限事業）の状況による

（問題点・課題）	
他区の実況	（実施区 未実施区） 台東区、豊島区、中央区、葛飾区（16年度）、千代田区（17年度）

問題点・課題の改善策検討	
平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
B	B	都の補助事業に加え、必要な標識設置について検討する。

議会議決要旨	
--------	--

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名	観光イベント助成	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	伊澤 敦
		担当者名	日下、野沢、森田	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	その他観光イベント助成（54-85-40-01） 川の手荒川まつり助成（54-85-30-01）				
事務事業の種類	新規事業（19年度 18年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	62 年度	根拠	荒川区観光振興事業補助金交付要綱	
終期設定	有 無	年度	法令等	川の手荒川まつり実行委員会実施事業補助金交付要綱	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	区民の開催する観光事業を支援し、区民とともに観光資源を育成する。				
対象者等	区民主体の民間団体				
内容	川の手荒川まつり 平成18年度は第20回を迎え、記念シンポジウムや郷土芸能の祭典などを実施した。 平成18年度 20,004千円 平成19年度 7,500千円 その他のイベント 平成15年度 シダレザクラ祭り 6,350千円（16年3月の提灯含む） 都電散歩～ワドキ自然体験～ 50千円 平成16年度 シダレザクラ祭り 1,450千円 平成17年度 シダレザクラ祭り 1,588千円 ダイヤモンド富士（50千円） 平成18年度 シダレザクラ祭り 2,175千円 ホタル鑑賞の夕べ（50千円）矢立初めの俳句大会（50千円） 平成19年度 シダレザクラ祭り 2,200千円				
経過	川の手荒川まつり 昭和62年から、毎年4月29日（祝）に実施。18年1月庁議において、開催場所を南千住野球場、東尾久運動場、荒川遊園、汐入公園とすることをルール化した。 その他のイベント ・シダレザクラ祭り（4月の第2土曜日）平成14年度から実施。 ・ダイヤモンド富士（11月、1月）平成17年度 ・ホタル鑑賞の夕べ（7月）平成18年度～ ・矢立初めの俳句大会（3月）平成18年度～				
必要性	地域が主体となって、実施している事業を支援し、定着させる。				
実施方法	（ 直営 一部委託 全部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
予算額			9,530	9,036	11,387	10,075	28,920	10,074
決算額（19年度は見込み）			9,476	8,023	9,004	9,221	22,316	10,074
人件費						12,158	6,694	
【事務分担量】（%）						170	100	
合計（+）	0	9,476	8,023	9,004	21,379	29,010	10,074	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	9,476	8,023	9,004	21,379	29,010	10,074	
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	シダレザクラ祭り参加者				500人	3000人	5000人	6000人
	事業補助金					1件	2件	5件
	川の手荒川まつり来場者				100千人	40千人	60千人	60千人
	川の手荒川まつり参加団体					121	124	178

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	補助金	シダレザクラ祭り補助金	1,588	シダレザクラ祭り補助金	2,175	シダレザクラ祭り補助金	2,200
		事業補助金(ダイヤモンド富士)	50	事業補助金(ホテル・俳句)	100	事業補助金	250
		川の手荒川まつり補助金	7,625	川の手荒川まつり補助金	20,041	川の手荒川まつり補助金	7,624

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	
	観光事業補助金申請件数	-	1件	2件	5件	5件	
標	シダレザクラ祭り来客数 (人)	0.5千人	3千人	5千人	6千人	6千人	
	川の手荒川まつり来場者数 (人)	100千人	40千人	60千人	60千人	60千人	

(問題点・課題分析)	
他区の実況	(実施 区 未実施 区)

問題点・課題の改善策検討	
平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
A	A	観光振興を図る上で、区民・事業者の自主的活動の支援を進める必要がある。

議会(要旨)質問状況	H16一定 沿線商店街と連携した都電乗客サービスの提供と路面電車サミットの開催について H14三定 都電沿線の文化祭における区及び地元商店街の関わり方について
------------	--

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名	観光振興懇談会運営費	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	伊澤 敦
		担当者名	坂野 竜二	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	観光振興懇談会運営費(54-88-50-01)				
事務事業の種類	新規事業（19年度 18年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	18年度	根拠	荒川区観光振興懇談会設置要綱	
終期設定	有 無	19年度	法令等		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	観光に関する様々な分野の有識者で構成する懇談会において、区の観光振興の目指すべき方向とその実現のために必要な具体的施策等について検討いただき、その提言に基づき、区の観光振興施策の効果的な推進を図る。				
対象者等	学識経験者、観光関係団体、観光・交通事業者、産業団体関係者等				
内容	懇談事項 1 区内の観光及び観光資源の現状 2 これまでの観光振興施策 3 他自治体における事例等の調査研究 4 調査機関による基礎調査の分析・検討 5 観光振興施策の今後の方向性及び具体的施策 観光基礎調査 懇談会での検討の基礎資料とするために、区内の観光及び観光資源の実態、観光に関するニーズ等について、専門調査機関による調査を実施する。				
経過					
必要性	より多くの来訪者を呼び込むために新たな観光施策の検討が必要である。				
実施方法	（ 直営 一部委託 全部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 懇談会については、直営で行っている。 観光基礎調査については、専門機関に委託している。				

		（単位：千円）						
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
予算・決算額等の推移	予算額						8,357	2,142
	決算額（19年度は見込み）						6,050	2,142
	人件費						7,686	
	【事務分担量】（%）						90	
	合計（+）	0	0	0	0	0	13,736	2,142
	国（特定財源）							
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	13,736	2,142	
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	観光基礎調査						実施	
	懇談会						5回	4回

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費			委員報酬	772	委員報酬	1,030
	旅費			視察旅費等	30	視察旅費等	752
	食糧費			賄い	52	賄い	93
	一般需用			消耗品	84	消耗品	100
	役務費			テープ反訳	129	テープ反訳	140
	委託料			基礎調査委託	4,983	基礎調査委託	0
	使用料			会場使用料	0	会場使用料	27

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	
	開催回数	-	-	5回	4回	-	

（問題点・課題分析）	懇談会の報告を区の施策に反映させる必要がある。
他区の実況	（実施 7 区 未実施 15 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成20年度以降に取り組み具体的な改善内容	改善により期待する効果
	懇談会の報告を踏まえ、区の観光施策の方向性と新たに取り組むべき事業を明確にし、直ちに実施する必要がある事業に着手する。	区の観光振興の方向性を踏まえ中長期的な対応が必要な事業も含め、体系的、計画的に事業を実施していくことができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
A	B	今後の観光振興の方向性や具体的施策を検討するものである。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--